

一宮タウンビジネス

TOWN NEWS



発行
 中日新聞
 一宮北部専売所
 伊藤新聞舗
 一宮市浜町3-11
 ☎73-4448
 編集
 (株)中日尾張折込ホールディングス
 一宮市富士3-5-15
 ☎23-2111

いちのみや 大学「尾西繊維維協会ビル探訪」講座

一宮の街をまるごとキャンパスにして、生涯学習を進める市民の活動団体「いちのみや大学」の第18回講座が開かれました。

今回は、一宮駅の南あたりにある、茶色いタイル張りのレトロな建物「尾西繊維維協会ビル」を探訪しようというもの。尾西繊維協会ビ

繊維の街・一宮の シンボルを見学



一宮駅南にある尾西繊維維協会ビル



ルは、昭和8年に建てられた旧尾西織物同業組合事務所所建物。現在も数カ所の繊維関係団体の事務所として現役で使われており、一宮の繊維産業のシンボルの存在であり続けています。9月23日の午後、同ビル3階の講堂に老若男女の参加者が集まりました。

講座ではまず、MS企画代表で尾州・テキスタイル・カレッジ副理事長の山下征彦さんを講師に、尾西繊維協会ビルについて、そしてこの地で繊維産業が発展した背景や現在に至るまでの歴史など、一宮の繊維業をとりまくお話を聞くことに。山下さんは織研新聞社の編集記者として海外特派員も経験するなど、36年にわたって繊維産業の取材、報道に携わってこられ、定年退職された現在も講演などで活躍されている方であって、ユーモアを交えながらの和やかな講演となりました。

その後、参加者はビル内を見学。講演会場となった講堂をはじめ、屋上に祭られている服部神社から、外壁に使われている特徴的なタイル(スクラッチタイル)という、縦方向に引っかいたような溝のあるタイルのこと。帝国ホテルで使われて流行し、当時の建築物の特徴のようです)、大きな金庫、扉の凝った装飾など、昭和初期の繊維産業が活気に満ちていた時代の建物らしく、細かいところにもこだわった見どころ満載のビルに、参加者は興味津々見入っていました。

この日の参加者は、古い建物に興味のある方、繊維産業に携わっておられた方など、20代から70代までさまざまな面々。ビルに施された丁寧な仕事ぶりに感心したり、昔の雰囲気が残る空間を懐かしんだり、当時の活況ぶりを再認識したりと、皆さん感動された様子。経済産業省の歴史遺産にも指定されている素晴らしい建物があることを、私たち市民はもっと知って、大切にしていきたいですね。

いちのみや大学では、今後も多彩な講座を企画、参加者を募っています。次回は10月23日に、起の旧湊屋文右衛門邸で、老舗茶園の若旦那さんの指南で茶歌舞伎(「利き酒」のお茶パフォーマンス)を体験する講座を予定。詳細は同大学ホームページへ。
<http://ichinomiyadaiigaku.com/>

さし、あ、さつこ売、て真